

II. ビッグヒルズのめざす街

1. グリーン・フロント自律都市圏

飯能・青梅丘陵地域のポテンシャル

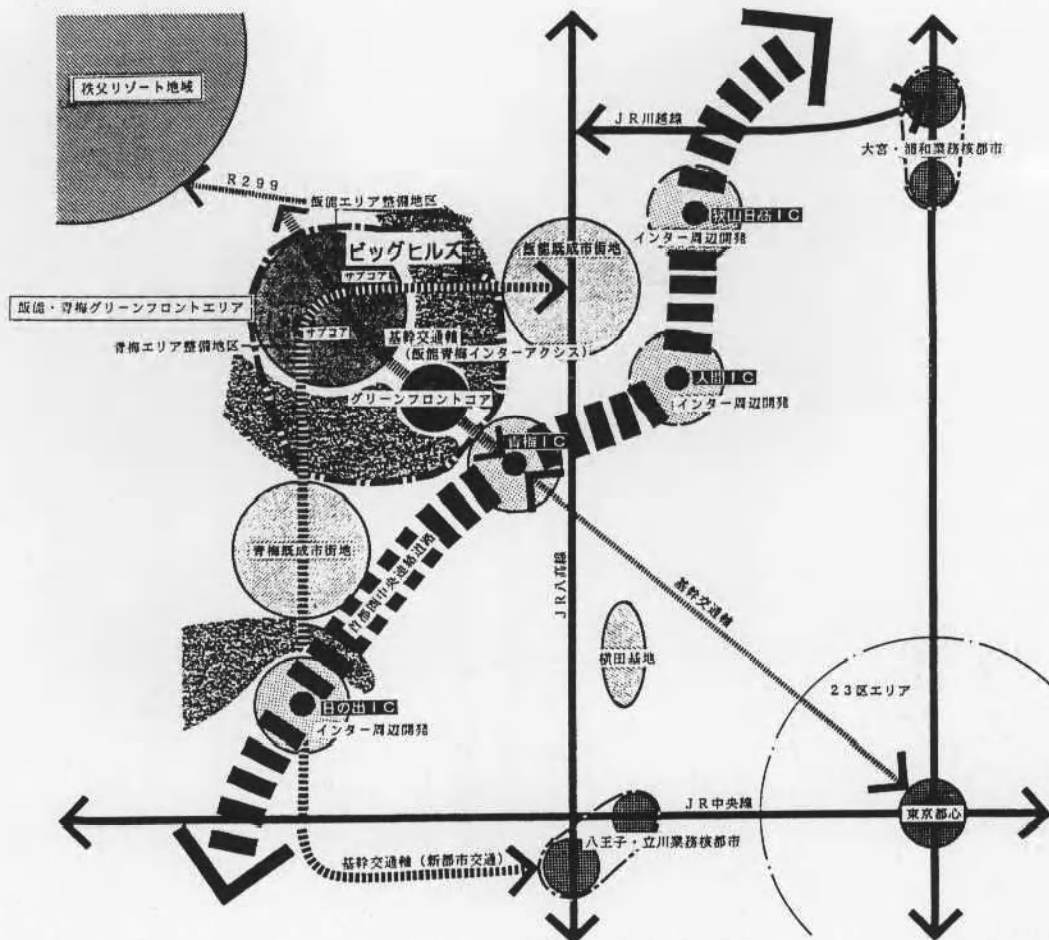
首都圏の広域交通インフラとして整備される圏央道は、首都圏の構造的な高次化を実現するとともに、ビッグヒルズの位置する飯能市をはじめとする埼玉県西部地域と東京都西部地域に多大な影響を与えるものと考えられている。圏央道は東海道メガロポリスや中央線沿線ゾーンと、東北・常磐セクターや関越セクターを結節する東京都心地域のバイパス・ルートとしての新しい都市軸を形成することから、全国諸地域と首都圏をリンケージするゲートのポジションを獲得する。将来的には中央新幹線や東京環状鉄道網構想、さらには横田の米軍基地の民間空港化など、国土幹線の交通インフラの整備が検討されており、この地域の交通利便性が飛躍的に高まることが予想されている。

これまで飯能市と青梅市はそれぞれ埼玉県と東

京都に属することから、強い都県の境界性に阻まれ、広域的な一体的生活圏を形成していない。飯能市は川越市や所沢市などと並んで埼玉西部地域の後背拠点都市として、また青梅市は立川市や八王子市の後背拠点都市としてそれぞれ発展を遂げてきている。

しかしながら、圏央道を中心として国土全体との交通のアクセシビリティの飛躍的向上は、飯能市および青梅市を中心とする埼玉県と東京都の西部地域のポテンシャルをきわめて高くするとともに、都県境界を越えた相互補完型のインフラ整備や多様なシステムのネットワーク化など、広域的・一体的都市圏の形成を促進するものと考えられ、現在こうした考え方からの飯能・青梅丘陵地域の将来的な地域整備の方向性の検討がなされている。首都圏の中の新しい拠点地域の実現である。

地域の将来像



グリーン・フロント自律都市圏の形成

ビッグヒルズはまさしく、この新しい広域的拠点地域となる飯能・青梅丘陵地域の一翼を担うものである。これまで多摩ニュータウンなどを代表として整備されてきた、郊外丘陵地域の都心地域へ通勤する人々の住宅地としてのニュータウンではなく、国土と首都圏の新しい広域結節点にふさわしい都市機能の立地と、グリーン・フロントにおけるライフスタイルの実現する環境共生型の複合的都市圏の形成である。

相模原から青梅・飯能丘陵地、さらに比企丘陵にまで続く新しい都市軸の形成は、この地域の開発ポテンシャルを更に高め、また身近なグリーンフロント環境の活用とともに、秩父から丹沢、湘南、甲信越といった圏央道や国土幹線を利用した広域レクリエーション地域へのアクセシビリティを生かした生活行動の可能性は、本格化する余暇時代にあって、真に豊かさやゆとりを実感できるライフスタイルの確立に資するものである。

グリーン・フロント環境を生かした自律的な都市圏と、21世紀のわが国の新しいライフスタイルを先導するまちの形成がビッグヒルズにも求められている。

フランスの丘陵都市 ソフィア・アンティポリス



『グリーンフロントという価値観』

滝澤 敏明

世の中の文化というのは、いろいろな価値観がないと活性化しない。都市文化で全国が埋め尽くされたら、何も進歩は生まれなくなってしまう。だから都市文化あるいは都市そのものと山村というものが、両方ともうまい具合に存在し、交流していくなかで共存していく必要がある。そのためにマジョリティになった都市人口が、もっと農村や山村の文化にふれる機会をつくり、その価値を見いだしていかなければならない。逆に農山村の人達はそういう都市の新しい生活価値の志向性を受けて、自信を取り戻す必要がある。そういうことを「グリーンフロント」として提唱している。

既にアーティストなど高感度な人達はいち早く大都市を脱出して山村に入り込んでいたり、山村留学、トロ基金、クラインガルデンなどが志向され始めており、生活価値の転換が起きてきている。そうした志向がグリーンフロントへの兆候だと思っている。

そういう意味で、都会に最も近い自然というビッグヒルズの位置は、新しい生活価値に基づくライフスタイルの実現が可能だろう。



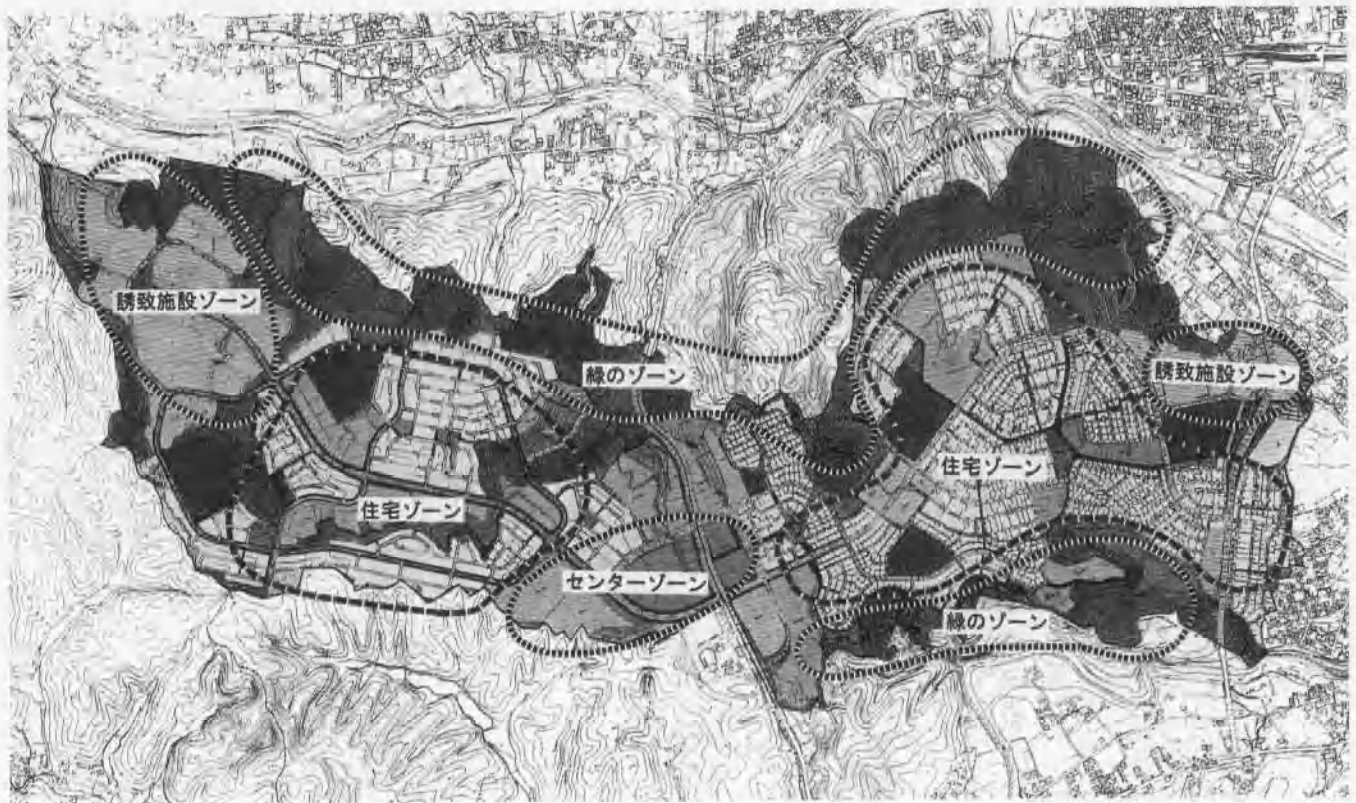
2. ライフスタイルの明確なビレッジをつくる、ビレッジがまちをつくる — 多様な価値観をもつ人たちが 住み・働き・遊ぶ

グリーン・フロントではビレッジが新しい

ビッグヒルズはグリーン・フロントという、秩父山地に通じる丘陵地に位置するとともに、圏央道といった首都圏の新しい交通インフラが整備され、居住機能以外の業務などの都市機能の立地集積が可能なことから、情報化社会とモータリゼーションの成果を生かした、新しいライフスタイルが実現される。ウッディな住宅の中のハイテクを駆使したホームオフィスやコミュニティオフィス、圏央道沿いの新しい研究所やオフィスに短時間で通勤する職住近接、圏央道や国土幹線を利用したウィークエンドの広域レジャー、レクリエーション行動、秩父や周辺の自然や環境に親しむアウトドア・ライフ、飯能市や周辺地域にあるクラフト資源を利用し、生きがいとなる趣味や仕事をもつ人など、グリーン・フロント環境を満喫する新しいライフスタイルである。

こうした新しいライフスタイルを追求する人々は生活価値観も明快であり、住宅やコミュニティのあり方も明快な考え方をもっている。新しいまちづくりにおいても、ライフスタイルや生活価値観を同じくする人々や家庭が集住でき、そのコミュニティに必要な共同施設や設備を整備しており、ライフスタイルを表現する住宅の設計や建設、外部環境の整備などができるよう配慮していく。こうしたライフスタイルの明確な人々がビレッジをつくり、そのビレッジの集合が新しい街をつくっていく。住戸、近隣社会、そしてコミュニティからまちへと、連続的なゾーン・キャラクターが形成され、ビッグヒルズのアイデンティティが醸成されていく。

ビッグヒルズ計画図



住み・働き・遊ぶまち

ビッグヒルズはこのまちで、住み・働き・遊ぶという、多様な都市活動を展開し、職住近接や同居といった新しいライフスタイルを実践するとともに、自由時間の充実した、真にゆとりある豊かな生活の実現を図っていく。グリーン・フロント環境にふさわしい自律都市圏として、居住機能以外にも、業務や商業、研究開発、アミューズメントなどの多様な都市機能の立地を検討しながら、これらの都市的活動の中心となる地域のコアの形成を図りつつ、ビッグヒルズの土地利用についても適切なゾーニングによる環境整備を行っていく。また、一方では、時間とともに変化する都市活動に対する将来のニーズにも答えるよう、一定の土地を計画的にリザーブし、時間をかけたフレキシブルなまちづくりに対する配慮も必要になる。

多様な価値観をもつさまざまな人達が、このまちを舞台にして住み・働き・遊びながら成長していくまちを実現していく。



『飯能・青梅丘陵のグリーンフロント コアづくり』

荒川 俊介

圏央道という広域交通インフラ・ストラクチャーの整備は、飯能・青梅地域の将来像を大きく変えていくものと考えられる。圏央道の整備と併せて、この広域丘陵地域に、保全すべき自然環境を担保しながら新しい時代に対応する都市的拠点を埋め込んでいくことが可能で、自然環境と共生するグリーンフロント環境にふさわしい丘陵都市や森林都市が実現していこう。圏央道青梅インターから秩父に抜ける広域的幹線道路、飯能市街地と青梅市街地を結ぶ地域幹線道路を軸に都市的ポテンシャルをあげ、そのまわりを大きな構造的緑地がとり巻く形が考えられ、レクリエーション環境を十分にもつ都市圏が形成される。こうしたレクリエーションやリゾート環境に恵まれた新しい丘陵都市の中で、都市的活動の中心となるシビック・コアが幾つか形成される必要があるが、この新しい都市的コアは、これまでの生活利便性を提供するニュータウンのタウンセンターとは異なり、グリーンフロント環境と二十一世紀のライフスタイルにふさわしい魅力あるものにしていく必要がある。



3. 自然を生かす・景観を生かす

深く、広大な溪谷空間

ビッグヒルズを囲んで、広大な溪谷空間を展開する入間川と成木川の河川の表情は一般の都市内河川や整備された親水河川のそれとは異なり、深い自然の中の溪谷であり、こうした溪谷空間が身近な環境に存在することはビッグヒルズの貴重な財産である。1日や季節の時の移ろいを感じさせ、また子ども達が自然を通して学ぶフィールドとして、そして河原や川を利用した身近なレクリエーション環境として、美しく広大な溪谷はビッグヒルズの生活に大きな潤いと豊かさを提供する。

溪谷を形成する美しい水とあふれる緑は、源への思いと奥深い自然への連続性を強く惹起させる物となろう。

樹木が連担して山へ至る

秩父山系の麓ともいえるグリーン・フロントに位置するビッグヒルズの緑空間は直接、山地や丘陵へと連なっている。整備された市街地の中の囲まれた緑ではなく、溪谷の兩岸の緑や尾根筋を通じて奥深い原自然へと連続している。まちの中の街路樹や花木から奥山の原自然と連続する緑の帯がビッグヒルズの景観を特色づけ、まちのイメージをつくる。

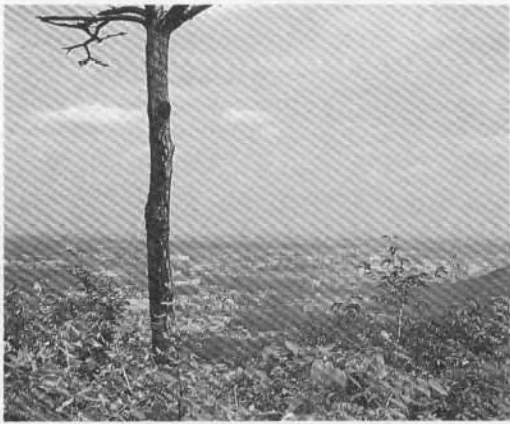
この連続する緑空間の存在はまちの景観を形成するとともに、深い自然から小鳥、昆虫などの動植物をビッグヒルズのまちの中へと招き入れる。まちの中の1本1本の樹木から深い山や原自然への連続性がビッグヒルズの景観とまちイメージの特色である。

自然に学ぶ・自然に遊ぶ

ビッグヒルズの水と緑は都市的な緑地ではない。秩父山系に連続する溪谷と森林という原自然である。この原自然はビッグヒルズに住む人々、飯能市民、そしてこの自然を愛するハイカーなどに広く開放され、身近な心身のリフレッシュ・フィールドとなる。特に子ども達にとって、川や森の中の自然の恵みや美しさを感じ、学習する体験領域として貴重である。街の中にまで子ども達の成長に刺激を与え続ける原自然ともいべき環境が入り込んでいることは、子ども達の創造性と想像力を涵養し、ひいては街の個性として発現している。高齢者から大人、子どもが一体となって、

自然に学び、自然と遊ぶ環境づくりとプログラムの実践を通して、グリーン・フロントのライフスタイルが形成されていく。





龍崖山 山頂からの展望

飯能河原



成木川



多峯主山山頂

狹トンネル

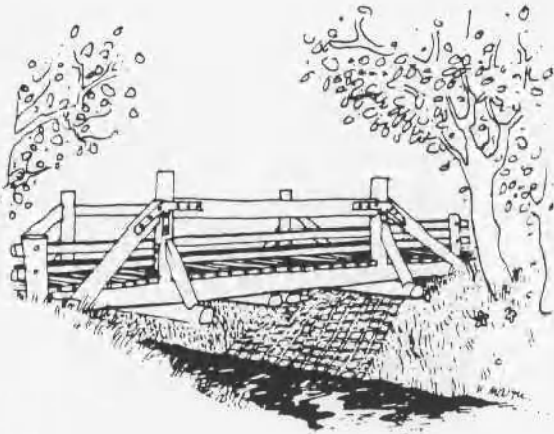


吾妻峽



自然を生かした造成によるまちの景観

深い溪谷や深山とつながる緑空間といった、ビッグヒルズのまちを特色づける自然環境はきわめて原自然に近いものであり、こうした深い自然をイメージさせるまちづくりの工夫はビッグヒルズに強く要請される。広大な斜面緑地の保全などとともに、自然の沼や池をイメージさせる調整池、切り通しやトンネルなどの造成による緑の連続性と名所づくり、自然地形や微地形を生かしたきめ細かい造成、生け垣や石垣などの多用による自然のテクスチャーを演出する造成などの採用を検討していく。



水上のテラス — 柳川

丘陵地を走る美しい道路景観

ビッグヒルズによって出現する丘陵地を走る幹線道路は、秩父リゾートや飯能・青梅地域のレクリエーション性やリゾート性を感じさせる美しい道路である。緑のトンネルや季節をつける花畑、自然素材による造成などにより、遠望する山々の姿と緑の島にも見える近景の住宅地に美しく調和し、快適なドライブを楽しむことができる丘の上の道である。ビッグヒルズに帰ってくる住民にも、レクリエーションを楽しむ来訪者にも心地良い窓の外の風景を映し出す道となる。

緑の中の住宅地

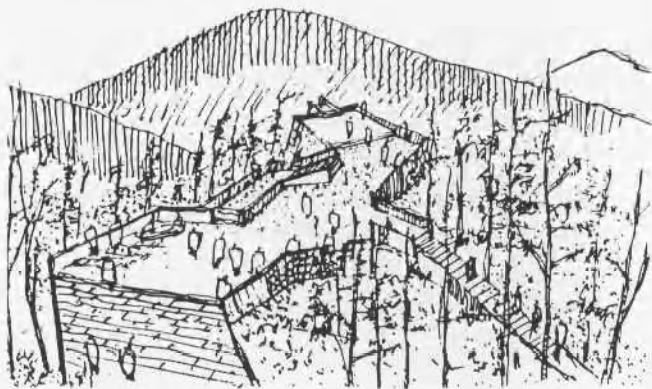
こうしたビッグヒルズの景観を形づくる大きな自然の構造の中で、住宅地のづくり方も工夫が要請される。グリーン・フロントにふさわしい本質的な意味での田園住宅のあり方を志向するものである。住区によっては共用で所有する自然林を残し、その緑に接して住棟を配したり、整備されたプレイパークを公共用地として確保するのではなく、自然林として残したり、公開空地として保存・開放するなどして、美しく自然環境と調和する住宅地をつくっていく。



自分達の住む街を眺める場所

ビッグヒルズの街の中には龍崖山と朝日山があり、入間川と飯能市街地を越えた北側には、同様に広く市民やハイカーに親しまれている天覧山と多峯主山があって、こうした高みに登ればビッグヒルズが一望できる。自分の家が、学校が、公園が、手にとるように見える。自分の家、友だちの家、通学路、遊びに行く公園、駅までの道、入間川と成木川、ビッグヒルズの街全体、このビッグヒルズに自分達は住んでいることを実感する。

こうした街全体を眺望する場所をもち、街を一望する体験の蓄積は、ふるさとの裏山や城山から眺める原風景と同様に、子どもの時から自分のまちとしての愛着心を生えつける。自分の住む街を知り、その構造を知り、場所性を濃厚に醸成させていく。自分達の住む街を眺めることは街への愛着を生む行為なのである。



多摩ニュータウン 鶴牧山



『自然地形を生かしたまちづくりと交流の場』

虎澤 英雄

飯能あたりの環境の良さは、何もなさそうな所だけど自然が多く残っているのも、そこには非常な魅力を感じる。私は成木川の支流の河畔に窯場を設けているが、鰻の寝床の様な細長い土地で、自然地形のままだから七〇〇坪の土地が一、〇〇〇坪以上の広さを感じる。飯能の何げない自然の魅力を生かし、よくあるニュータウンの様に、画一的にならしてしまわずに起伏や林を残して、精神的にも安心感のあるまちづくりをしてほしい。

自然の中に入り込めるようなベランダで、自分の作品で珈琲を飲みながらクラシック音楽を聞きたい、という自分の夢を実現するためここに土地を求め、そうしたサロンの場を開いているが、都会に住んでいる人の共通した夢もあった様で、沢山の人がやって来ている。尺八の演奏会なども開いたりしているが、ビッグヒルズのまちづくりでも、自然を感じながら住民や他所から来た人々が気軽に交流できるような場所ができたらいと思う。



4. 水と緑がまちをつくる

— 水と緑の回廊によるまちの骨格空間づくり

水と緑の回廊づくり

入間川の飯能河原や飯能市内の山、寺社仏閣は首都圏の近郊レクリエーション拠点として人々に愛され、年間300万人の人が訪れている。

この人達の多くは、天覧山から多峯主山への手軽な山歩きを楽しみ、飯能河原で水に触れ楽しい休日を過ごしている。二つの山と入間川を挟んで対峙する丘陵地にビッグヒルズがある。ビッグヒルズ側（入間川右岸）にも二つのピーク朝日山と龍崖山があり、麓に住む人達には知られているが、こちらの二つの山はハイカーが訪れるほどポピュラーな領域にはなっていない。

水と緑の回廊づくりは、ビッグヒルズのまちづくりの中で、朝日山と龍崖山を市民の山としてよみがえらせ、この二つのピークを入間川を挟んで天覧山・多峯主山と結んで4つのピーク（スクエア・ピークス）を形成し、飯能河原と吾妻峡を包含したまちの骨格空間を誕生させようとする構想である。

この水と緑の回廊はビッグヒルズのオープンスペース計画で、さらに南に拡がって成木川渓谷や赤根ヶ峠とネットワークされる。特にビッグヒルズの中に岬のようにはり出している朝日山は、まちの展望台であるとともに南に下るとビッグヒルズのセンターゾーンに入っていく。センターゾーンに導入された全天候型アミューズメント施設やテーマパークあるいは宿泊施設の利用連係を図ることにより、日帰りのアウトドアレクリエーション空間はよりマルチなレクリエーション空間へ、さらに滞在型のレクリエーション空間へと変貌する。このようにして水と緑の大空間は、住む人にも訪れる人にもわかりやすいまちの骨格空間を出現させ、多くの人達に利用されて市民の貴重な財産になってゆく。

300万人のビジターが入間川をわたって、ビッグヒルズの緑空間へ

ビッグヒルズのまちづくりはこのようにしてレクリエーション利用ニーズに答えていくとともに、新しいグリーン・フロントのまちとしての自然志向のライフスタイルを実現できる環境を整備していくため、山林を含む広大な構造的緑地を保存整備していき、飯能河原に遊びに来た人々や、飯能

市のレクリエーション拠点にやってきた300万人の人々が入間川をわたって、ビッグヒルズの緑空間を楽しみに来れるよう整備していく。居住者の日常生活を脅かすことのない動線計画を配し、山歩きの雰囲気をも十分に味わえる環境を維持し、かつ追加的に魅力を付加していく。花鳥風月の歳時記性のある季節の名所、竹林の中の散策路、吊り橋や自然素材による橋など、山歩きやハイキングの楽しさを満喫できる装置や環境を整備していく。

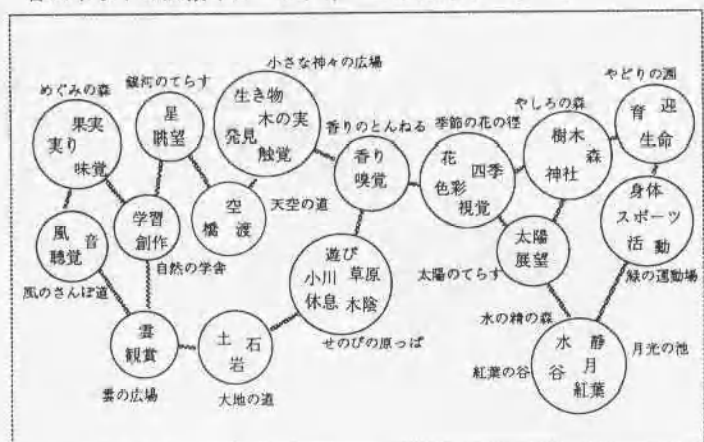
「飯能：自然の回廊」計画

清々しく、晴れ晴れとした心地を作る自然景は人の心を豊かにする。飯能河原が人々を引き付けるのは、自然の恵みと人間の営為とが巧みにバランスし、清々しい「気」の中で心を遊ばせられるからである。

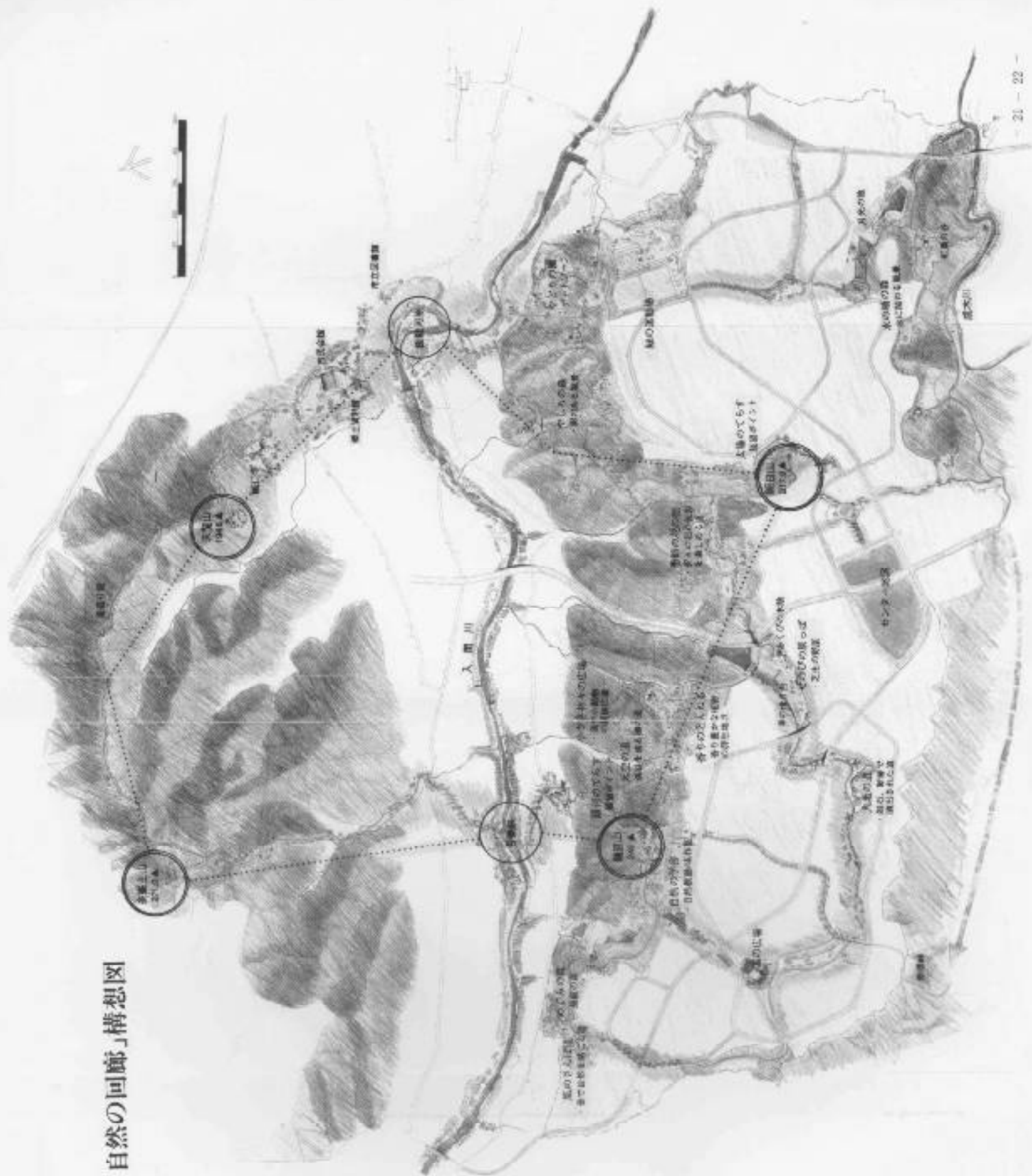
この清々しさの「気」をさらに周辺に拡げ、人が「気」を晴らす場づくり、精気あふれる風景づくりを進める具体的なよりどころが「自然の回廊」計画である。

この回廊の風景テーマは、生命、自然の精気が織りなす多様さであり（下図参照）、概ね次項の様相で、スポット風景や見晴らし風景が演出されることになるだろう。

各スポットの風景イメージ、ネーミングのキーワード



「飯能：自然の回廊」構想図



自然を通してまわりとつなぐ

こうした水と緑の回廊はビッグヒルズの計画対象地側からだけネットワーク化するのではなく、既成市街地へも積極的に遊歩道やプロムナードで結んでいく努力をしていく必要がある。ビッグヒルズを含む周辺地域一帯の自然が飯能の貴重な財産として広く認知されていくことが、ビッグヒルズにとっても、飯能の既成市街地にとっても望ましいことだからである。水と緑の回廊を中心とした自然の魅力が高まれば一方で飯能市街地の都市的魅力の向上が一層望まれ、反対に既成市街地の都市的魅力が高まれば、自然への欲求がさらに高まるからであり、その間をさまざまなネットワークやルートで結ぶことにより、互いの相乗効果を高め、飯能全体の自然的魅力と都市的魅力という全体的な地域の魅力を高めていくからである。自然を通してまわりとつないでいく努力は可能な限り、追求されるべき課題である。

より美しく、より人の集まるグリーン環境

飯能のレクリエーション資源は西武線沿線の住民をはじめ、多くの人々に親しまれている。飯能河原では子ども達が川遊びを行い、大人達はバーベキューなどを楽しんでいる。また天覧山をはじめとする手近な山や丘陵地は四季を楽しむハイキングコースとして広く知られ、里に点在する寺社仏閣巡りは俳句や絵の絶好の題材を提供している。

こうした既存の周辺レクリエーション資源と連動しながら、ビッグヒルズの緑空間の中に、こうした山歩きや里歩きをする人達や河原遊びをする人達のレクリエーション願望をより満足させる自然や環境、レクリエーション施設を整備し、現在300万人と推測されている飯能市へのレクリエーション入込客を大幅に増加させるとともに、ビッグヒルズに住む人達にとっても充実したグリーン・フロント・ライフを送ることのできるプログラムを用意していく。トレッキングコースの整備やバーベキューをはじめとするレクリエーション用具のレンタル、環境や自然を学習することのできる施設やコースの設定などを行い、アウトドア・ライフの場を環境とサービス・プログラムを設け、首都圏の最も都会に近いレクリエーション拠点のひとつとしてのゾーン・キャラクターを形成していく。

『里山のもつ資源を生かしたまちづくり』

坂根 進

街の中に河川の渓谷景観があるのは珍しく、また杉林や雑木林、桑畑がかなり残っているのは今では貴重な資源である。杉林は京都の北の方の感じで、東京にはあいつた景観は少ないから、うまく残しながらアピールすれば地域の魅力のひとつになるし、桑畑による養蚕を行なっていけば、産業としては成り立たなくてもシルクの見直し気運もあることから、手技の新しい資源や観光資源になる。こうしたこの地域の里山のもつ何げない資源や力を活用して、単なる住宅地としてはなく、生きがいや住まい方の価値を発現するまちづくりが可能となろう。

また溪谷や山林、丘陵地という自然環境や地形を生かした付加価値のあるまちづくり、例えばトレッキングコースのある住宅地開発などは、ビッグヒルズの考えて良いテーマである。アメリカのロッキー山脈やコロラド州、カナダのブリティッシュ・コロンビア州などの自然公園整備やマウンテン・リゾートには最近よく見られており、ビッグヒルズの溪谷と山林を生かしたトレッキングコースの整備はまちの魅力のひとつとして楽しい装置となろう。



5. まちと自然への来訪者を暖かく迎えるホスピタリティのあるまち

もてなす心配りのあるまち

ビッグヒルズの住宅地の外縁部に広大な構造的緑空間が保全・整備され、飯能河原やその他のレクリエーション拠点に来た人々が近郊の山歩きや自然を楽しむため、この緑地を来訪する。またビッグヒルズのタウンセンターは、ビッグヒルズに住む人々の利便性を担保するだけでなく、自動車利用の広域的自律都市圏形成に資する高次の魅力あるセンターとして位置づけられることから、飯能市をはじめとする周辺地域からも多くの人々が訪れることが期待されている。

このように、多様なニーズをもって多くの人々がビッグヒルズを来訪することに対し、住宅地の配置や動線計画の上では住民の日常生活を極力脅かさない共生への配慮を行うとともに、まちとして来訪者のニーズに即したもてなす心配りのあるまちづくりを展開していく。山歩きや散策が楽しくなる環境づくりとともに、峠の茶屋といったサービス休憩施設、ギャラリー、カフェなどの付加機能のついた住宅、来訪者サービスセンターなどをビッグヒルズの適当な動線へ近接して立地することを検討するなど、きめの細かいホスピタリティをまちづくりに実現していくとともに、そうした展開によりビッグヒルズの住民の生きがいや自己実現機会を提供していく。



お鷹の道遊歩道(国分寺市)

来訪者に道を教える

ビッグヒルズには水や緑、まちを楽しむ多くの人々が来訪するが、その目的に応じて楽しみながら、わかりやすい誘導方策を街の随所に整備していく。賑いを楽しむセンターへのサインは楽しく、美的なモニュメントやサインボードを設置し、また水や緑を楽しむ道沿いには石や木といった自然素材を使ったサインなどを工夫するなど、街の具体的な装置としてもホスピタリティに配慮していく。

また、ビッグヒルズの居住者が来訪者に道を尋ねられてもすぐ地図が描けるような、構造の明快な街のつくり方と、場所性を明示できる街の装置、ランドスケープの装置、ネーミング、モニュメント、シンボルツリーなどを埋め込んでいく。

積極的な住民と来訪者の交流

まちとしてのホスピタリティとともに、より積極的な住民と来訪者の交流を促進していくプログラムを用意し、住民と来訪者の生きがいや豊かな生活づくりに資するとともに、グリーン・フロントという立地特性を生かしたビッグヒルズのまちとしてのアイデンティティを形成していく。ビッグヒルズの周辺に生息する動植物の観察や調査を通じての自然環境の学習プログラムや天体観測、陶芸や木工などのクラフトスクールなどの開催により、グリーン・フロントという自然資源に都市的要素が加わったことによる環境の高付加価値化を実現するゾーン・キャラクターを確立しながら、住民と来訪者の交流による互いの生きがいや自己実現機会をつくっていく。



七沢森林公園 森のかけはし

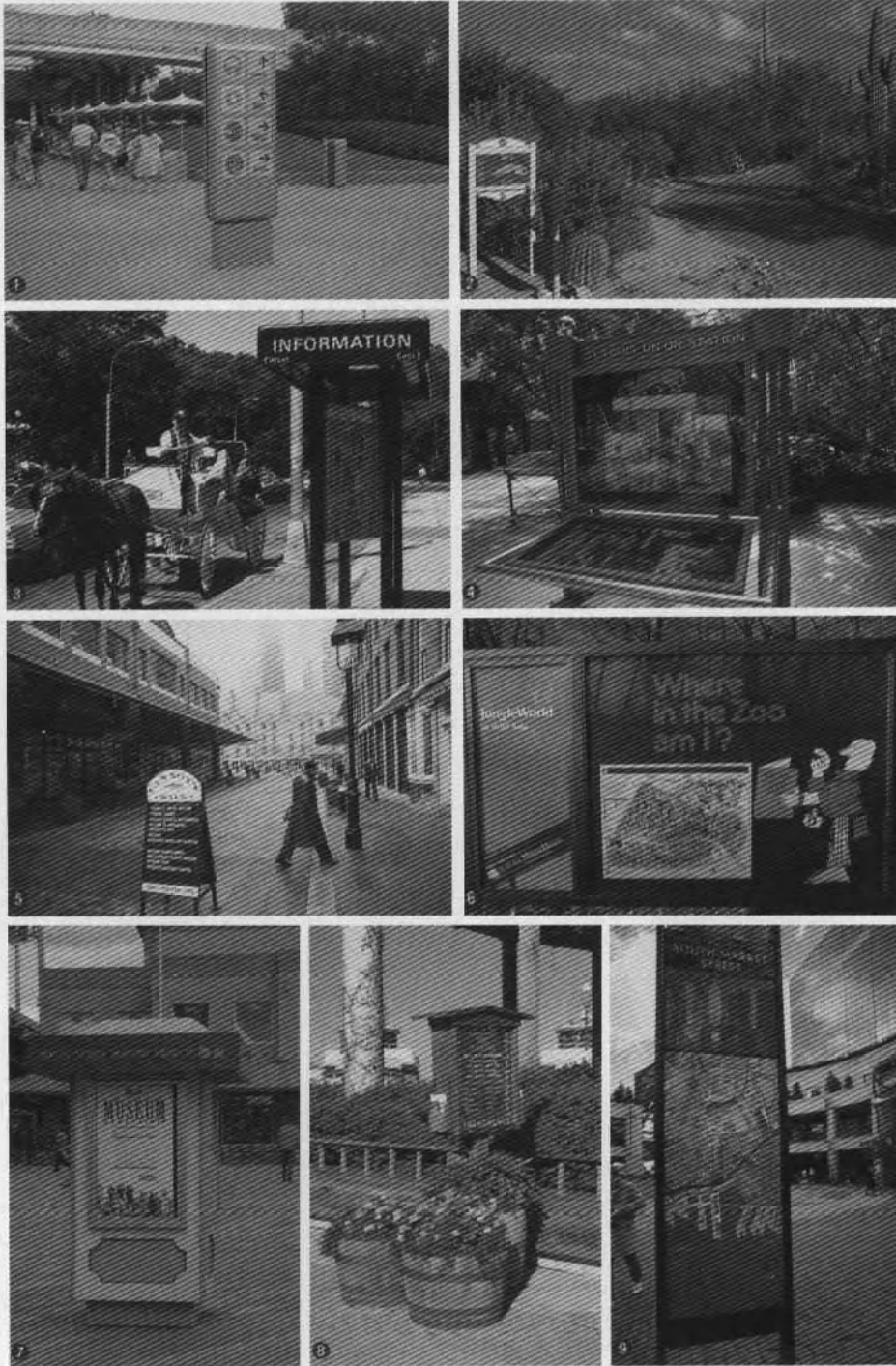


ガス燈 (神戸ハーバーランド)



奈良市営住宅の火の見やぐら

街の中の楽しいサイン



- ① エブコット・センターの施設誘導サイン(オーランド)
- ② ゴルフコース案内板(ラバロマ・カントリークラブ、ツアーソン)
- ③ 地図案内板(セントラルパーク、ニューヨーク)
- ④ 思い出を込めた案内板(ユニオンステーション、セントルイス)
- ⑤ 立看板(サウスストリートシーポート、ニューヨーク)
- ⑥ 楽しい案内板(ブロンクス動物園、ニューヨーク)
- ⑦ ボードウォークに似合う案内板(サウスストリートシーポート、ニューヨーク)
- ⑧ ウッディ感覚の案内板と花の演出(ピア39、サンフランシスコ)
- ⑨ 案内板(フェニエルホール・マーケットプレイス、ボストン)

6. 住宅とコミュニティ

住宅がまちの風景をつくる

まちの風景は一つ一つの住宅の積み重なりである。住む人や家族の生活価値観やマナーの表れとしての住宅の集合がまちの景観の基調を形成するものであり、街路樹や外部環境といったデザイン要素はその景観に彩りを与える程度のものである。従って、まち全体の風景の決定的な要素は住宅のデザインにあるといえる。

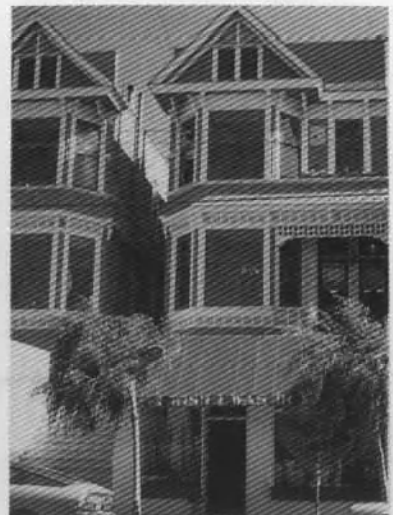
ビッグヒルズは自然環境に恵まれて、文字通りの緑の中の住宅地を実現するものであり、そうした住宅地に相応しい住宅のデザイン開発を行っていく必要がある。また、ビッグヒルズの街全体のシンボル性や景観性を考慮し、ランドマークとなる集合住宅や新しい斜面住宅などの導入を検討する必要がある。

こうしたグリーン・フロントの住宅の新しいあり方を募る建築コンペティションの実施や、一流の建築家によるモデル住宅の設計などを行いながら、話題性の喚起と普及活動を展開し、ビッグヒルズのまちの風景をつくっていく。



ライフスタイルを表す家と暮らし

グリーン・フロントにふさわしい住宅とは、そこに住む人や家族のライフスタイルが表現されたものである。アウト・ドア・ライフを楽しむ人達、自然や星空を愛する人達、環境にやさしいリサイクル型社会を志向する人達、自然食品を愛好し、周辺の農業や林業を営む人と、共同で無農薬食品を手に入れようとする人達、子ども達の自然学習や遊び環境に目を配り、プレイパーク運動に参加する人達、飯能の歴史や地域研究にいそしむ人達、そうした生き方が表現されるライフスタイルの反映する住宅と庭がそれぞれ集住し、そうした小さな単位が集合してまちとなるのである。ライフスタイルをあらわす家と暮らし方の実現を推進していく。



斜面や自然地形、素材を活かした住宅

ビッグヒルズは画一的に整地造成された住宅地ではなく、極力斜面や自然地形を残しながら、それを活用した住宅地をつくっていく。斜面住宅や丘の上の住宅など、リゾート的環境や里山的環境を演出しながら、個性ある住宅とライフスタイルの創出を誘導していく。素材や植栽などもグリーン・フロントにふさわしい工夫を重ねながら、まちとしてのきめの細かいテクスチャーを感じさせる住宅地をつくっていく。



岡山県吉備高原都市の自然地形を生かした住宅地



『住まいが大きく変わってきている』

森下 慶子

現在、住む人の住まい方の視点が大きく変わってきている。例えば友達に家に遊びに来てでもなしにしても、昔と違って家には泊めないで、近くのホテルに泊める、あるいは食事もそのホテルで一緒にする、その方がもてなす方も、来訪者も気がねなく訪問し合えるといった様に、軽やかなコミュニケーションを前提とした住まい方へのシフトである。こうした変化は女性の社会進出に伴う、生活価値の変化によって主導されてきたと良。

また、個性的な生活スタイルを送る人もだんだん増えてきている。豊かな社会で素直に育ってきた世代にとって、他人と同じようなレベルの住宅や生活スタイルの達成が既にステータスシンボル性を失っており、ニュータウンに代表される均質な平準性を嫌い、不便でも山の中に住むといった個性的なライフスタイルを選択し始めている。こうした体験を現在の日本社会が除々にしてきていることは、人々の生活スタイルや生活価値観を変えさせ、それに伴って住まいも大きく変わってこよう。



自然と調和した住宅

斜面住宅(南足柄市)



プラスワン住宅(多摩ニュータウン)

斜面となじんだ中層住宅(平城ニュータウン)

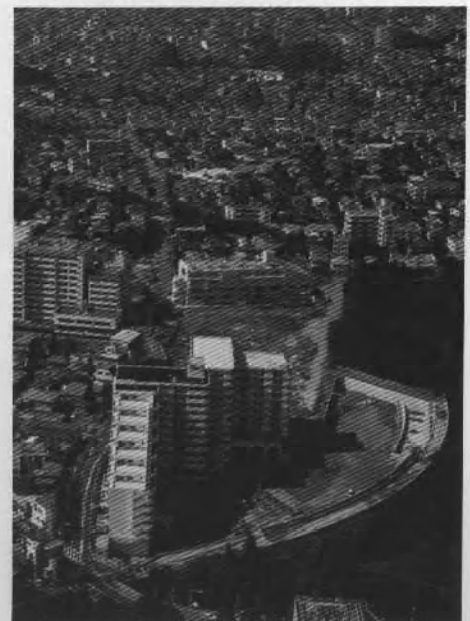


木造3階建(ウッディタウン)

森の中の住宅(ケンブリッジ市)



調整池を有効利用した高層住宅(哲学堂ハイツ)



7. 星と溪谷 — 歳時記のあるまち

自然と時の移ろいを肌で感じる

グリーン・フロントに位置するビッグヒルズに隣接する溪谷の水と緑は自然そのものであり、季節ごとの美しさを演出する。またビッグヒルズの夜空を飾る満天の星は春夏秋冬の星座を描き出す。

こうした季節を彩る自然の構造にビッグヒルズのまちを構成する緑地や樹木、プロムナード等の外部環境を連続させ、まちの中に居ながら時の移ろいを感じることでできるまちづくりを行っていく。まちの中の並木道や街路樹は花や実のなる樹木を多用し、季節とともにまちの表情を華やかにするとともに、ビッグヒルズ周辺の山や川から季節の訪れを告げる鳥や虫をまちの中にまで引き入れていく。

また各戸の住宅の庭や生け垣、植込みなどによって、スメルスケープともいうべきビッグヒルズの中のまちの香りを演出し、通勤や通学、買い物といった日常の生活行為の中で季節の移ろいを感じることでできるきめの細かい演出を行っていく。日本人のこれまで蓄積されている都市の中の自然への美意識である路地の自然を大切にすまちづくりを実現する。



花鳥風月 — 歳時記性のある生活カレンダー

まちの自然環境や屋外環境とともに、まちの行事やまつりなどの生活を彩り、季節を想起させるイベントを定着させ、子どもや住民の記憶に刻印される生活カレンダーのあるまちを実現していく。正月の周辺の寺社への初詣から始まり、梅の名所とウグイスの初音を楽しむまつりや桜、あじさい、ホタル、川遊び、夏祭り、星の観測、名月鑑賞、ススキと秋風、雪見の名所といった、花鳥風月の名所づくりをビッグヒルズと周辺の自然環境や飯能のもつ資源の中に形成し、春夏秋冬の生活の潤いとなる、環境や自然と一体となったまちのイベントを定着させていく。季節の移ろいを楽しみ、過ぎ去る季節を惜しみながら、来たるべき季節への想いを感じさせるまちづくりを実現していく。



11月飯能まつり



7月八坂神社

桜の天覧山





鐵倉の洞門



ロンドン ラベンダー・ポンド・ナチュラル・パーク



ドイツ 青少年農場

『歴史が刻印されていく町』

大塚 洋明

一般的にニュータウンは最初にすべてきれいにつくられて、時が堆積されていく装置が無い。すべてが説明され尽されてしまっていて、不思議なものに対する人間の興味とか、記憶にひっかかる何物かが無い。あるいは夏祭りのシーンを想起させる神社とか、楽しい思い出を想起させる町としての装置が少なすぎる気がする。

少しづつ時が経過し、それにつれて植物は育ち、町の中の家の建て替えなどが行われて、それなりに成熟していくのだが、やはり子ども時の思い出や生き方が町の中へ刻印されるような何物かがほしいし、そうした町の方が人々から愛着をもたれるのではないだろうか。植物の生育などでそれなりに成熟するのは確かだが、やはり意図的に最初からそうしたものがいくらかほしいものである。パリのニュータウンのひとつであるマルヌ・ラ・バレでは廃墟をイメージさせる蔦で覆われた給水塔をつくるなどして、時間の堆積を感じさせるまちづくりを行っているが、こうしたことは庭園の作庭手法として多くの事例があり、少し日本のまちづくりでも導入してよいテーマであろう。



8. 時を刻印しながら成長するまち

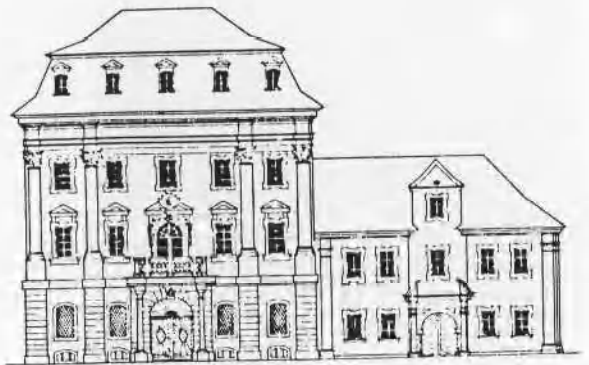
まちの歴史をつくる

新しいまちは造成、植栽、建築ともすべてが新しく、美しくつくられる。居住者にとってはマイホームの夢が実現し、郊外生活者としてのライフスタイルを獲得した輝かしい舞台であり、このまちで始まる家族としての生活の歴史が誕生する。子ども達にとっては自己形成史が、そして居住者にとっては家族と共に生きる成長史がこのまちに刻印されていくのである。

新しいまちはこうした時間の経過を刻印する契機となる具体的な街の装置が少ない。樹木の成長や大樹の存在は時間の堆積を感じさせる有効なものであり、新しいまちをつくる上でも新しい樹木の植樹に際しては時とともに成長する樹種や存在感のある樹種を選定していくことも重要であるが、計画地域のある大樹とその周辺地などを残しながらの造成といったきめの細かな配慮により、土地の記憶の連続性を担保していくことも重要である。鎌倉の住宅地の中の切り通しやトンネルは自然や土地としての歴史性を感じさせるとともに、人々が鎌倉を訪れる楽しみのひとつとして名所性を獲得しており、こうした造成や環境の創造は十分に検討に値しよう。

また、子どもの誕生時や入学といった時期を記念する植樹や、まちの成長の節目ごとでの公共建築の整備や環境芸術の設置とそれを記念するイベ

ント等を開催し、まちとしての歴史をストーリーとして刻印していく。



マルヌ・ラ・バレ(フランス)の給水塔



木造の小学校(茨城県瓜連町立瓜連小学校)

時の堆積で演出する

新しいまちとしての時間的単調さを打破していくため、ビッグヒルズ周辺の寺社などの歴史資源と協調する、まちとしての時間的堆積を演出していく。生け垣や白塀など日本庭園の作庭手法を利用した環境創出や、木造の公共建築物の出現などにより、歴史性や時間的魅力を感じる街の装置をつくっていく。民家園や農家を利用した飯能の地場産業と環境を学習できる施設などにより、周辺地域との場所性を想起させる装置をビッグヒルズの中に立地誘導していく。



軍太利神社



亀ガ谷坂切り通し(鎌倉)

『時の経過というものへの配慮』

小島 伸悟

東京の真ん中にずっと住んでいたが、飯能の顔振峠のすぐ下に家具づくりの工房を開いてちよと一〇年になった。家具づくりをしてきて、そこその物を作りたいと頑張ってきたが、最初のうちは納品に行くこと、自分の作品がこの家の中に入るのか、嫌だなど思うことがあったが、途中から変わってきて、今度この人達やその子供達が家を建てる時には、自分の家具を使っていたら、多分感性の異なる家を建てるのではないかと思う様になった。

まちづくりでも同じように、最初にすべてをつくってしまおうではなくて、新しくできた家が周りの環境を啓蒙して全体にだんだん良くなっていくといった、長いスパンで街を考えると良いと思う。あそこにある家が面白い、さらに突っこんでいくと、建物だけでなく生き方とか生活が面白いということになって、相乗効果で生き方が豊かになる可能性を含んだ街に魅力を感じる。時間の経過というものへの配慮があると、まちづくりが永いスパンで考えられていると感じるとともに、豊かさを感じる。そうした文化の方が生きていく手ごたえがある気がする。



9. 飯能の新名所となるアーバン・リゾートゲート — 社交と交流の都市施設と自然

広域圏の中の都市的魅力のあるセンター

飯能・青梅丘陵地帯は首都圏の西部地域の新たな拠点地域として、広域的な自律的都市圏の形成が期待されており、ビッグヒルズもその一翼を担っている。従ってビッグヒルズのタウンセンターは居住者の利便性だけを対象とした商業だけを中心とした近隣センター的な性格ではなく、自動車移動を前提にした広域からも集客が期待できる、高次な都市的魅力をもつセンターとして位置づけられている。

圏央道整備に連動した、地域活性化に資する施設立地の拠点として、ビッグヒルズ西部に集積する誘致施設との連携を図りながら、サテライトオフィス等の新しいビジネス機能やアカデミックな研究開発、教育機能を導入し、新しい地域イメージを創出するシンボリックな空間づくりを行っている。

飯能市の新たな都市のインターフェイスの形成

ビッグヒルズのセンター地区は飯能市にとっての新しい、prestigiousな都市の広場となる必要がある。新しいまちを付加し、より大都市へと成長発展した新たな飯能という都市のアイデンティティやキャラクターを象徴するものであり、ビッグヒルズの住民とともに、これまでの飯能市の市民にも喜ばれ、新しいライフスタイルや生活行動を可能にし、人々が交流する新しいインター・フェイス機能である。

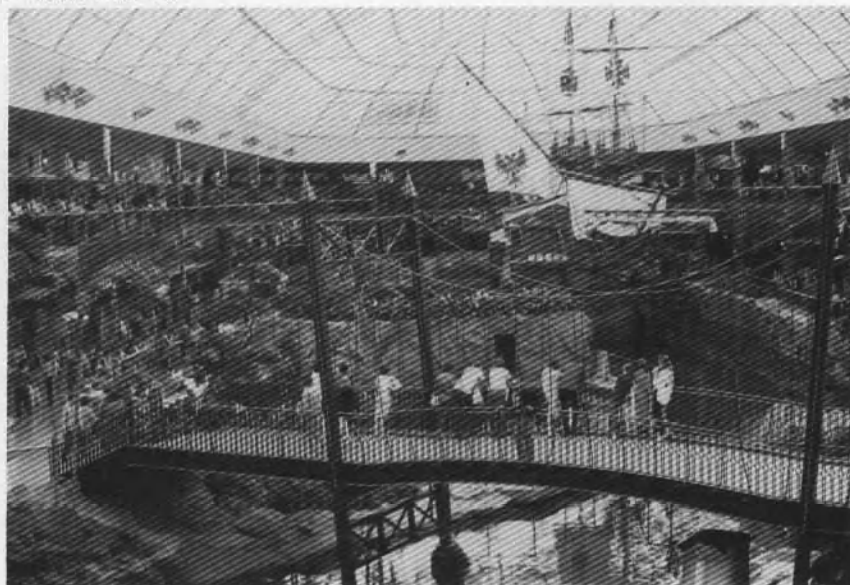
アーバンリティとリゾートの調和するセンター

飯能市には現在も年間300万人もの人々が近郊レクリエーションの地として訪れている。ビッグヒルズが開発する広大な緑空間の魅力ある環境とプログラムは更なるレクリエーション客を呼ぶものと期待される。

こうしたレクリエーションやリゾート環境を求めて来訪する人々にとっても、ビッグヒルズのセンター地区は新たなレクリエーション拠点、レジャー拠点としての機能や活動の場の創出が望まれる。飯能河原やハイキング、寺社仏閣などを来訪するレクリエーション行動の延長上に、新たなレジャー欲求に応え満足する機能やサービス・プログラムを整備していく必要がある。

またビッグヒルズのセンター地区は自動車利用の上では秩父リゾート圏のゲートのポジションにもあり、都市近郊のレクリエーション拠点という位置づけとともに、秩父リゾートのゲートという位置づけを加味した、高度に魅力的なアーバンリティと、レクリエーション性やリゾート性の調和と共生がビッグヒルズのセンターに求められている。

ウェストエドモントン・モール





大分県山国町のタウンセンター計画

大分県の山あいの町のタウンセンター。町役場やタウンホール、図書館、資料館、ギャラリーなどの複合的タウンセンターで、シンボル性やアメニティ性を配慮した計画となっている。



筑波研究学園都市学園センタービル

『ビッグヒルズのセンター』

楠本 洋二

ビッグヒルズのセンターを考える場合、秩父リゾートのゲートゾーンや飯能・青梅丘陵都市のひとのコアといった、広域的なアプローチを必要とするセンターなのか、あるいはビッグヒルズという住宅地の利便性を担保する一般的なタウンセンターなのか、という揺らぎ方が面白い所だが、基本的にはニュータウンのセンター機能とは異質のところから構築していく拠点性だと思われ、それをやらないと面白いものにならないだろう。

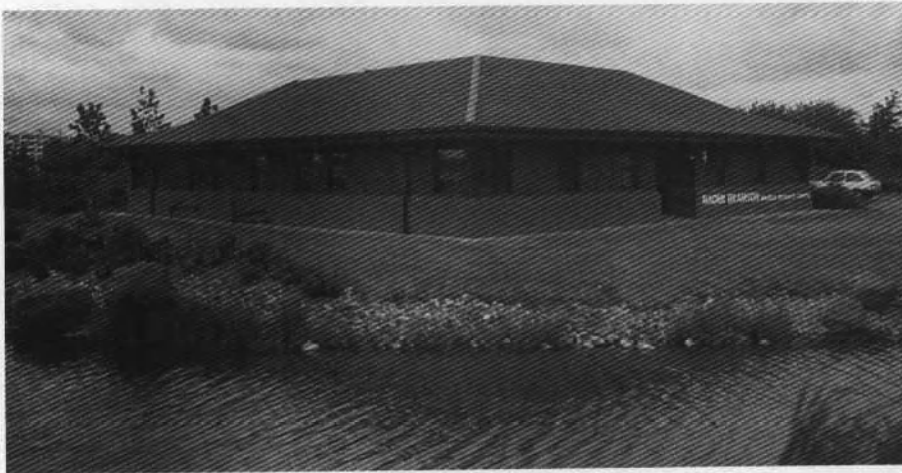
ただし、その時に交通インフラなどがまだ明確になっていないこともあって、広域的な意味をもつが実際のコアとなる機能としては、山の中や森の中のほのぼのとしたものに近いイメージが考えられるのではないだろうか。飯能河原に遊びに来る親子連れが、その行動の延長上にセンターにやってくることは十分考えられる。

また、隣接地に予定されているゴミ処理場は資源として重要だ。広域行政的な整備主体の構築も可能だし、環境やエコロジーなど、時代的価値観になりつつあるテーマが浮上してこよう。





広場の噴水



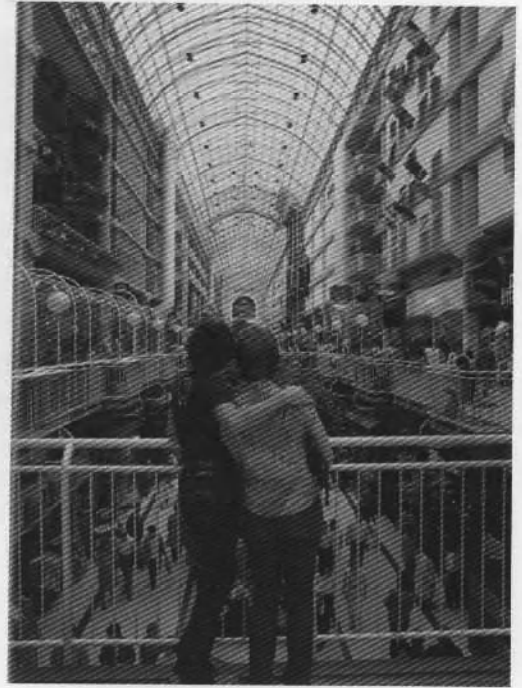
サイエンスパーク



まちの中の学校(つくば看護専門学校)



ショッピングセンターの中の砂漠の植物園



インナーモール



余熱利用のウォーターパーク(川崎市)

10. 車と暮らしの調和

モータリゼーション社会の車と調和する住宅地

ビッグヒルズは西武線飯能駅から徒歩圏でまちとしての広がりがある交通条件を具えているものの、丘陵地という地形や住宅地としての規模からマイカーの利用は必至である。加えて飯能・青梅にまたがる広域的自律都市圏の形成や国土幹線の整備が近傍に予定されていることなどから、自動車利用機会は多くなり、マイカー保有ニーズは高くなることが予想される。

こうしたことから、ビッグヒルズの駅から遠い地区などでは2台収容可能な駐車場つき住宅地の整備や、傾斜地を利用した共同駐車場、場合によっては機械式パーキング施設などの導入を検討し、あとから緑地や空閑地の駐車場転用問題が起こらないよう配慮する。

一方、住宅地の中のコミュニティ道路ではボンネルフ型道路など、子どもの遊び環境や生活と共生できる街路の工夫を積極的に展開し、駐車場とともに生活や子どもの外部環境と自動車の調和したまちづくりを実現していく。

ボンネルフ(オランダ)



コミュニティ道路(尼崎市立花)



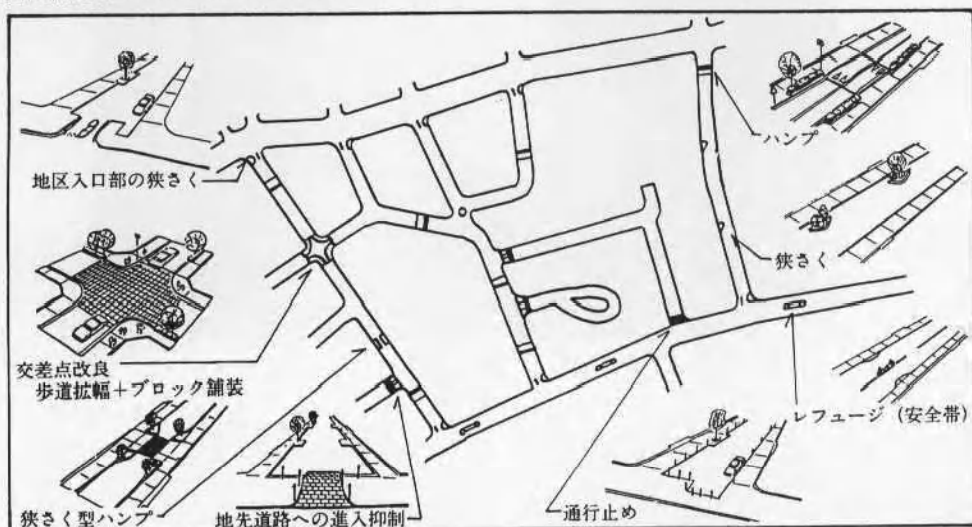
ニュータウンのシンボル通り(宇治市黄檗台)



路側駐車と狭さく型ハンブ(ドイツ)



交通静穏化プロジェクトの実施例



広域利用のためのセンター地区の大規模駐車場

ビッグヒルズのタウンセンターは広域自律都市圏の中のひとつのコアとして機能することが考えられることから、日祭日等のピーク日には相当な駐車需要が想定され、周辺住宅地にそうした自動車が溢れ出ることのないよう、大規模な駐車場を整備していく。本格的なモータリゼーション社会のタウンセンターを実現していく。

またビッグヒルズを舞台にしたイベントや、飯能河原その他飯能市で開催する規模の大きなイベント等の開催時には、このセンター地区の大規模駐車場を利用し、周辺住宅地や飯能市街地への自動車の侵入を極力抑えていくよう配慮する。

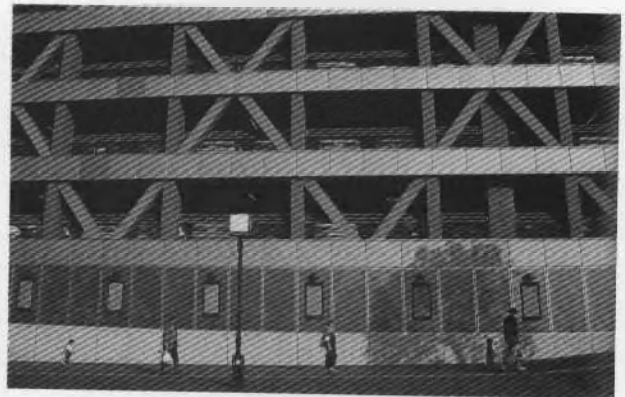
路面共有型の歩車共存道路(大阪市関目)



公的交通サービスの導入

ビッグヒルズの成長に伴い、バスネットワークの拡大を図るとともに、坂の多い環境や高齢化の進展を考慮し、ディマンドバス等の新しい交通サービスの導入を検討していく。

さらに、飯能・青梅丘陵地域の都市開発が本格化する時期には、その都市像にふさわしい新しい公共交通システムのあり方を検討し、グリーン・フロントの新しいライフスタイルを実現する交通サービスを考えていく必要がある。



立体駐車場

『子どもの遊び環境・身の回り環境』

仙田 満

学齢以下の子どもの日常的な遊びの範囲は約六〇m、小学生でも二五〇mが限度で、そうした生活圏の中にオープンスペースが用意されていなくてはいけない。遊びやコミュニケーション活動やいろいろな野外活動の場として、家の周辺にオープンスペースがきちっと確保されるべきである。

特に現代は、一家に二台の自動車が必要、といったモータリゼーションの普及から、子どもの遊び場や屋外環境が自動車によって脅かされており、それだけに、身の回りの子ども達のためのオープンスペースが必要となっている。

また、幼児や子どもにとって、保育園だけでなく宿泊体験もかなり大事である。子どもの遊びや自然の学習は「伝承遊び」であり、そうした共用のコミュニケーション活動としての宿泊体験が、身近なところにあるといい。

ビッグヒルズの周辺にはそうした場所がとりやすく、また適地も多いから、子どもの遊び環境や身の回り環境を重視したまちづくりが進められると良い。



11. ごみと環境 — エコロジーに配慮したまち

グリーン・フロントとエコ・ライフ

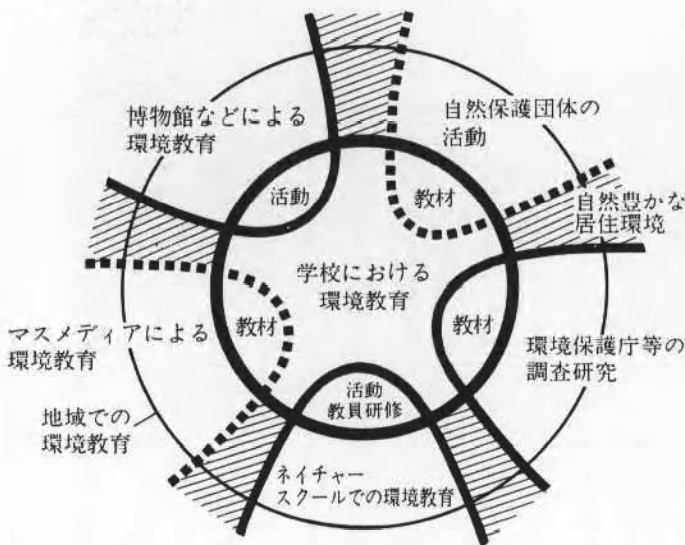
ごみと環境問題は現代都市の病理として重大な課題として浮上ってきている。ビッグヒルズはグリーン・フロントに位置し、緑と清流という自然の恩恵を十分に浴した環境であるが、日常の生活から出される廃棄物と排水はそのままビッグヒルズの誇る自然環境に影響を与えることから、まちとしても十分な環境への配慮を徹底させていく必要がある。

グリーン・フロントにふさわしいライフスタイルは自然を愛好し、環境にやさしい生活を実践する人達である。リサイクル社会をめざし、子ども達の自然や環境の学習に共に参加し、動植物を愛する人達である。こうしたグリーン・フロントに位置する新しいまちとしてのライフスタイルを確立していくため、環境教育とエコロジーに配慮したまちづくりや生活の実践をビッグヒルズのまちの主要なテーマとして、住民とともに普及活動をあげていく。エコ・ライフはビッグヒルズの生活の基本である。

エコ・ヴェルクシュタット(ドイツのエコ・ワークショップ)の展開モデル

1 日目	<違ったやり方で生活し、違ったやり方で活動する> オルタナティブな教育の場を例にした別の生活形式の試み			
2 日目	<活動の重点：森林> ○森林しらべ(営林署員の指導と解説) ○林業と森林のエコロジー(討論) ○土壌しらべ(実践演習) <活動の重点：景観> ○自然の美：美的な見方(スライド付き講演と討論)			
3 日目	○よく見て表現すること：風景画(自然の中で描く) <活動の重点：水域> ○小川しらべ：水源から経済的な利用に至るまで(小川の流れの巡視) ○自然科学的—技術的な観点から見た小川(スライド付き講演と討論)			
4 日目	<活動の重点：身体の自覚>* ○「自分自身」しらべ：一つの導入(実践演習) グループ活動			
5 日目	水 自然科学 的な調査 と分析	自然食品 の理論と 実践	よく見て 表現する こと：風 景画	「自分自 身」しら べ 私と私たち の未来： 未来の予想 と未来の方 向づけ
6 日目	<グループ活動の報告>			
7 日目	<教育活動への結論>			

※< >は学習・活動のテーマや重点
○は主な内容
()は学習・活動の形態



スウェーデンの地域での環境教育

ごみは貴重なまちづくりの資源

ビッグヒルズに隣接する清掃工場の存在は、まちづくりの上で貴重な資源のひとつとなる。埼玉県は内陸県であることから、ごみ処理は県にとっても、市町村にとっても最も重要な課題のひとつであり、都市環境の中に立地する新しい処理施設のモデル性を獲得できるポジショニングにある。焼却に伴う熱源はタウンセンターのさまざまな施設整備の可能性を生むものであり、モダンな処理場は環境学習の上で貴重な施設となる。ごみや環境、科学といった分野におけるミュージアムであり、学習センターなのである。

また、ごみ処理に伴う広域行政の必要性は、センター地区をはじめとする各種施設の整備主体が拡大することであり、ビッグヒルズの魅力づくりに大きな役割を期待できる。ごみはビッグヒルズのまちづくりの上で貴重な資源なのである。



タウリガー自然教育センター(アメリカ)



ネイチャー・トレイルの一部

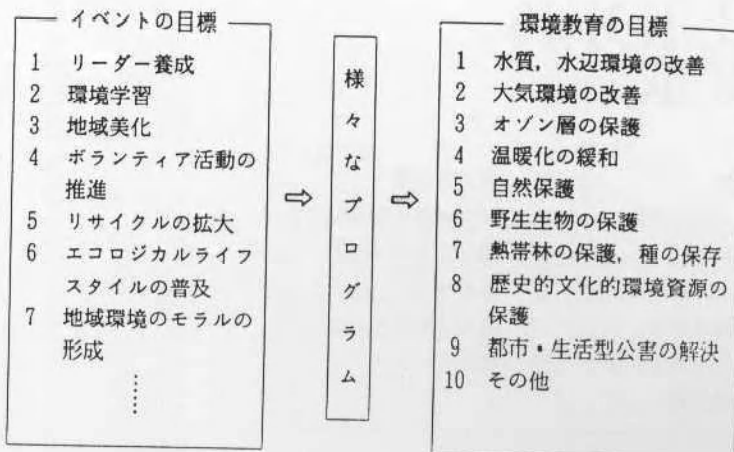
周辺に馴染む、環境を支えるその他の施設

ビッグヒルズの美しい環境を支えるインフラ施設については、調整池と緑地環境との一体化はもとより清掃工場や汚水処理場、配水場などについても、周辺の住宅地や自然環境に馴染ませていくデザインや付加機能の開発をしていく。外壁やフェンスはつたを植えたり、レンガによる外壁を表装するなどにより、土木的スケール感をもつこれらの環境を支える施設群の高質化を図り、ビッグヒルズの環境価値を高めていく。



調整池(厚木森の里)

環境学習イベント



エコロジーをテーマにした各種施設

エコロジーや環境をテーマにした公園や緑地、あるいは環境学習センターやミュージアムなど、ビッグヒルズの中の魅力づくりや施設整備を行い、環境にやさしいまちづくりをアピールし、ビッグヒルズのキャラクターを形成していく。屋外空間に設置する環境芸術や遊具などにも、積極的にエコアートや自然エネルギーなどをテーマとし、ビッグヒルズ全体が新しいエコロジーをテーマ化したまちづくりの実践という都市像を確立していく。



ダムの上の遊歩道(沖縄県漢那ダム)

オーストラリアのセレス・エコパーク

- 1 DAM
- 2 ANIMALS
- 3 BEES
- 4 TIP MUSEUM
- 5 CHOOKS
- 6 COMMUNITY GARDENS
- 7 HERBS
- 8 TAFE PROGRAM
- 9 PICNIC SPOT BBQ AND MOUND
- 10 WORM FARM
- 11 COMPOST BINS

LEE ST. ENTRANCE

WALKING TRACK

HERBICIDES

CERES

SELF-GUIDED TOUR

- 12 WOMEN'S GARAGE
- 13 COLISEUM
- 14 SOLAR WORKSHOP
- 15 OFFICE QUARRY HUT
- 16 BLYTH ST. ENTRANCE
- 17 PLAYSPACE
- 18 EDUCATION CENTRE
- 19 SHADE HOUSE GREENHOUSE
- 20 LOW ENERGY HOUSE

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. ダム | 8. TAFE | 15. 石切り小屋 |
| 2. 動物コーナー | 9. ピクニックの丘 | 16. プリス通り側入口 |
| 3. 養蜂場 | 10. 虫農場 | 17. 遊び場 |
| 4. ごみ捨て場博物館 | 11. 堆肥づくり | 18. 教育センター |
| 5. 養鶏場 | 12. 女性の為のガレージ | 19. 日よけ小屋と温室 |
| 6. コミュニティガーデン | 13. コロシウムガーデン | 20. 省エネハウス |
| 7. ハーブガーデン | 14. 太陽熱工場 | |